

長泉麗峰山の会・山行報告書	文・写真 北村
山行番. NO. 2037B	
日時 2024年4月6日(土) 曇のち晴	
山域 八ヶ岳・赤岳(2899m)	
コース 長泉 4:00 -美濃戸着(駐車)6:28 -赤岳山荘(南沢へ)7:11 -行者小屋 9:39-文三郎尾根分岐(2722m)11:30 -赤岳頂上(昼食)12:31 -文三郎尾根分岐 14:00 -行者小屋(南沢へ)15:03 -赤岳山荘 17:25 -美濃戸 18:05-夕食後-長泉着 21:45	
標高差 上り・下り=1418m	
難易度 非常に困難 困難 やや困難 レ普通 やや易しい 易しい	
念願の冬の赤岳、二人で登頂	
参加者 山田(敬)、北村=2名	

冬に登ったことがなく、今シーズントライしたかった八ヶ岳の主峰赤岳、山の会で計画されていたが気象条件に恵まれず流れていた。残雪期になったが、同じく赤岳を希望していた山田さんとパーティーを組み、定例アルパインとして実施が叶った。

長泉から車で出発、空模様を気にしながら長野県に入るが、分厚い雲に靄と眺望ゼロの雰囲気、後に晴れる予報に期待しながら、美濃戸口登山口に到着した。

赤岳は前日降雪予報が出ていたが、美濃戸は全く雪が無かった。八ヶ岳山荘駐車場に車を止め赤岳に向け出発。風が無く暖かで体感気温は5℃くらい、歩き始めてすぐにミドルレイヤーを脱いだ。40分ほど林道を歩き赤岳山荘に到着。溶け始めたアイスキャンディの後ろから薄日の太陽が見え好天の兆しを感じた。日当たりの関係なのか美濃戸山荘手前の林道だけ雪があった。

まずは南沢に取りつき行者小屋に向かう。雪の無い登山道も標高を上げていくと雪が現れ、徐々に硬く締まった雪道の割合が増す。標高1800m地点でアイゼンを装着した。

アイゼン装着中、チェーンアイゼンで歩く二人組が通過していった。軽く言葉を交わすと、我々同様赤岳を目指すとの事であった。足は重くなったが歩きの安心感は抜群、快調に進むとアイゼンを付けずに慎重に歩く若い二人組に追いついた。この2組のパーティーは、しばらく近くを歩いていたが、いつの間にか後に見えなくなっていた。

土が露出した山道は雪も濁って綺麗とは言えなかったが、進むと雪は真っ白に変わり、やがて湿気を帯びた雪からサラサラした軽い雪に変わった。景色は変わらないが、雪質の変化は明瞭で、着実に標高を上げていることが感じられた。

南沢も終盤、道がなだらかになり視界が開け、真正面に雪化粧した横岳の岩峰が見えてきた。その先には目指す赤岳が見えてテンションが上がった。

行者小屋に到着、テント場はテント一張りのみ、小屋の前には数名の登山者が休憩していた。土曜日の好天予報日にはしては人が少なく静かだった。休憩してトレイを済ませ、装

備をヘルメット、ピッケルに変更。ここからが本日のアルパイン登山だ。気を引き締めて赤岳アタックを開始した。



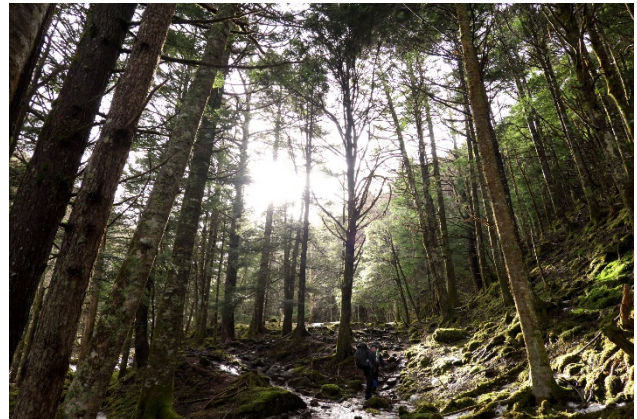
雪の無い美濃戸 (建物は八ヶ岳山荘)



赤岳山荘のアイスクャンディと木漏れ日



美濃戸山荘手前の林道 この道だけ雪あり



南沢の樹林帯を進む



横岳の岩稜が見えてきた



行者小屋到着 登山者少なく静かだった

文三郎尾根序盤の針葉樹林帯は木の枝に雪がつもっていた。4月に入りもう雪少ないと想像していたが、まだまだ雪山といえる積雪だった。標高を上げて下を見ると地上は彼方まで雲海が続いていた。車移動中に見た分厚い雲は雲海の下に居たからか？青空は見えない

いものの、進行方向には、赤岳～阿弥陀岳、後方には硫黄岳、蓼科山、天狗岳、雲海の先には北アルプス。今日もまた素晴らしい景色に出会いカメラを向けた。

尾根の傾斜がきつくなり標高をぐんぐん上げる。ふと、振り返ると、後ろを歩く山田さんが少し離れていた。聞くと息が上がりやすいとの事。素人の想像だが、標高 2400m を超えて急激に高度上昇しているので軽い高山病では？と思った。

自分も何度か経験しており、今年2月の杣添尾根でも、何とかついて行けたものの息があがり苦勞した。今回は水分をしっかり摂って予防していた。立ち止まらず歩けているので、少し様子を気かけながら前進した。

山行目的の一つの地図読み、今回はある場所の地形確認も課題とした。地形図から文三郎尾根は分岐(2700m)の手前付近で、尾根から斜面のトラバース地形に代わっていることが明確に見て取れる。斜面は中岳の谷まで続いており雪崩が怖い場所と地図をコピーしながら見ていた。地形図でイメージした地形と実物の照合、現在の積雪状態など立ち止まって確認した。耳を澄ますとトラバースの一带だけ小粒納豆くらいの雪粒が常に転がりカサカサ音を立てていた。樹氷の欠片？不気味にも感じた。斜面には雪崩に巻き込まれるほどの雪は残っていなかったが、用心して山田さんと距離を空けて刺激しないように通過した。

分岐(2722m)に到着。標識はエビの尻尾ができており、まだ寒さ厳しいことが見てとれた。雲をまとった神々しい権現岳と、その先に見える南アルプスの景色がまた素晴らしく魅了された。来てよかったと実感する。

分岐から先に進む、しばらく土が露出した緩やかなザレ場歩きとなる。歩きやすい場所なので、景色を楽しみながら進んだ。いつもの力が出ない山田さんには「あと登り 200m です」「権現と南アルプス良いですね」などと声をかけながら様子をうかがった。



雲海と北アルプス



赤岳 西斜面 小さな氷瀑もできていた。

赤岳鉱泉泊で赤岳をピストンしてきた二人組が降りてきた。富士山が見えるか気になったので聞いてみると、残念ながら見えないとの事。アルプスはくっきり見えているのに・・・雲が取れることに期待を残しつつ進む。



権現岳と南アルプス（手前の赤いザレ場は赤岳の斜面）



分岐手前のトラバース 雪粒が転がっていた

分岐(2772m) 左は阿弥陀岳

鎖場に入ると、再び雪道になった。しっかり雪がついて歩きやすく、傾斜も緩いので緊張感は感じない。ただし、転んで勢いがつくと谷底まで滑落する場所があった。慎重に歩けば問題ないが、下りの時のために、地形と雪の状態を頭にいれながら進んだ。

アドバイスをしてくれる会長や熟達者は居ない、経験値の近い二人の力を合わせ声かけあい登った。リスク承知の上でソロ登山も好きだが、やはり仲間がいるのは心強い。

終盤の上りは、アイゼン、ピッケルを過去一番フルに活用した登山となった。どちらも雪山登山の非常に優れた道具であることを身体で理解できた。稜線のキレット分岐に到着して残りはあとわずか。小さな岩場を通過して山頂は目前となった。最後に油断できない

急斜面を登る、山田さんも続いて登る、二人揃って赤岳頂上に到着した。

山頂には10名ほど登山者が居たが、全員同じパーティーで、入れ替わりで下山していった。山頂の人はまばら、地藏尾根から上がってきた登山者に写真を撮ってもらった。

昼食は行者小屋に降りてゆっくり食べる予定だったが、空腹だったので赤岳頂上山荘の前で手短かに食べた。暖かな登山日和だったが、赤岳山頂だけは冷たい風が吹き、冷凍庫の中にいるようだった。早々に防寒着を着て保温ボトルの暖かい湯を飲んだ。



文三郎尾根 赤岳直下の鎖場



赤岳登頂でスナップ 左:北村、右:山田

空腹もおさまり下山開始。山頂を離れると、またすぐに暖かくなった。尾根東側はガスで高度感が無いので、うっかり油断して落ちないように気を引きしめ、危険箇所はお互い様子を見守りながらキレット分岐まで進んだ。

その先で渋滞が起きていた…と思ったら団体パーティーがザイルを使って登山指導しながら降りていた。立ち止まって少し様子を見ていたら、リーダーの男性が我々を先に通すよう全員に指示してくれた。台湾からの登山者のようで「どうぞ」と片言で促してくれた。

端に待機してくれた8人の顔を一人ひとり見て「ありがとうございます」と会釈しながら通過、皆さん微笑み返してくれて、労いの視線も感じてホッコリした。

上りでチェックした滑落危険箇所、氷って転倒に必要な箇所を無事クリア、文三郎分岐(2772m)まで降りてひとまず一安心、軽く水分補給して再スタートした。

階段のある急登箇所ですら再び渋滞していた。山頂付近で先に通してくれた台湾からのパーティーの仲間のように6人でロープワークの練習をしながら降りていた。先頭の登山者がまだ不慣れなようで、後ろの組も待っている状況だった。また、少し見ているとリーダーが気にかけて道を譲ろうと考えている様子だったが、狭くお互い危ないので、無理せず広い場所まで降りてもらふことにした。

最後尾で待っていたショートロープの二人組(女子)に「地震は大丈夫でしたか?」と声をかけてみた。少し理解の間をおいて、笑顔で「こんにちは、初めまして」「7.2」「ありました、大丈夫でした」という感じの返事をしてくれた。最初は渋滞しない場所で練習してから来てほしいと思ったが、どちらのパーティーもリーダーが周囲の登山者に迷惑かけまいと気づ

かい、登山者もみんな優しそうで暖かな気持ちになった。

広い場所で先に行かせてもらい、その後は他の登山者もおらず短時間で行者小屋まで戻った。もう危険箇所はなく、足の疲れも出るところなので少しゆっくりした。辛そうだった山田さんは、標高が下がったせいか表情も柔らかく元気になっていた。

電波が繋がり山岳スキーに行っていた会長から長泉での夕飯のお誘いメールが届いた。登頂を自慢(笑)したかったが、時間的に無理なので欠席の返事をさせて頂きマイペースで安全に下山、運転することにした。せっかくお誘いいただいたのに申し訳ありません。

ヘルメットを外して動きも軽くなったが気を緩めず転倒しないよう気をつけて歩き18時に車を停めた八ヶ岳山荘に到着した。一緒に登頂できて良かったあ～満足感を味わいながら、山荘で眠気予防も兼ねて美味しいコーヒーを頂いた。駐車一台につき一杯サービスのところ、特別に二人分サービスしてくれた。小屋番さんありがとうございます、とても美味しくいただきました。

時間が遅くなったので楽しみにしていた温泉は諦め、コンビニで軽い食事を済ませて長泉に帰着した。この冬に行きたかった赤岳に登頂でき大満足の日となった。

山田さん、長時間お付き合いいただきありがとうございました。



ロープ訓練中のパーティー(上)



危険箇所を通過して安堵 青空も出てきた



文三郎尾根 階段の急坂くだり



行者小屋まで下山

登山ルート概要

